

2014年11月13日

# 身元不明遺体と不明者

## DNAデータベース化

警察庁

警察庁は13日、身元不明遺体と行方不明者のそれぞれDNA型をデータベース(DNA)化するを発表した。遺体の身元確認に役立てる。同庁幹部は「認知症の高齢者が徘徊(はいかい)途中で

事故で亡くなったケースにも活用できる」としている。今年6月に閣議決定された死因究明等推進計画が、遺体の身元確認にDNA型情報を活用するよう求めていた。警察庁は関係する国家公安委員会規則を改正する。14日から1カ月間、一般の意見を募り、施行は来年4月の予定。

警察庁は現在、捜査対象となったことがある人

たDNA型計約56万件をDBに記録。発見した遺体のDNA型をこの記録と照合する作業があったが、行方不明者と突き合わせることができなかった。新DBに登録するのは、捜査しても身元を確認できなかった遺体と、自殺したり、事件、事故に巻き込まれたりした疑いがある「特異行方不明者」のうち、家族が希望する人のDNA型。

警察庁によると、警察が取り扱う遺体は毎年1万5千前後。ほとんどは遺族の確認や所持品から身元が判明し、登録は年間千件ほどになる見通し。

一方、特異行方不明者は昨年約4万9千人いたが、ほとんどが6カ月以内に見つかっている上、家族の希望が必要なため、登録数ほどの程度になるかは不明という。

ニューヨークのタイムズスクエアの現場、セントラルビル(中央ビル)の超高層WTCで12日、窓ガラスを破る作業を乗せたコンドミニアスを崩し、9階片側に傾き倒れた。消防がビルを割って2人を救出した。

104階建ての米国の独立年に